カナダ人の発明発見(Ⅳ)

●「レッド・ファイフ」小麦

カナダは、今日、世界有数の小麦生産国であるが、ここに至るには、より強い、より健康で、より生産的な品種を開発しようと日夜奮闘した先人たちの努力と苦労があった。

そのうちの一人、デビッド・ファイフさんは、一八二〇年に両親と一緒にスコットランドからカナダへ移住してきた。やがて両親から土地を引きついだファイフさんは、隣人から気違い扱いされながら、小麦の品種改良に取り組んだ。

一八四三年、ファイフさんはスコットランドの友人から郵送してもらった種をまいた。ところが、それは秋まき小麦であったため、一本を除いてすべてだめになってしまった。その一本は中々期待できそうだったので、ファイフさん夫婦(写真)は収穫期まで見守ることにした。

小麦がそろそろ熟しかけたある日のこと、ファイフさんの牛が一頭、腹をすかせて畑の中に入ってきた。牛は麦穂を食べながらどんどん進み、例の麦へ向かっていった。あわや——というとき、奥さんのジェーンさんが金切り声を上げながら台所から飛びだしてきて、牛を追っぱらった。

こうして誕生したのが「レッド・ファイフ」と呼ばれた新種の小麦である。これは、他の品種と比べて十日間も成長が早いばかりか、見映えがよく、比重が大きく、単収もよく、パンを作るには最適とあって、農家から大歓迎された。何年かのち、この「レッド・ファイフ」から、「マークィス」(侯爵)という全くすばらしい品種が開発された。

●「マークィス」小麦

カナダ西部の厳しい冬に適した「マークィス」品種の小麦を開発し、西部の大荒野を世界的な穀倉に変えるきっかけを作ったのは、チャールズ・E・ソーンダーズである。

ソーンダーズは、長年、化学を学んでいたが、笛が好きで、笛のためならすべてをあきらめてもいいと思っていたほどだった。しかし、首都オタワで連邦政府の実験農場局長をしていた父の意向もあって、ソーンダーズは政府の穀物担当官になった。一九〇二年、彼が三十五才のときである。

実験室には、くもの巣のかかったビンがいくつもあって、それぞれに小麦のサンプルが入っていた。その中のひとつ、「レッド・ファイフ」種とインドの「ハード・レッド・カルカッタ」種を交配したものから、たくましい変種が生まれた。「レッド・ファイフ」より病気に強く、寒さに耐え、単収が良く、しかも植えてから収穫までに百日しかかからなかった。これが「マークィス」品種である。一九〇八年に商業生産されて以来、その人気は高まる一方。一九二〇年には、カナダの春まき小麦の九割以上を、「マークィス」が占めるほどだった。

ソーンダーズのおかげで、西部カナダに農業移民がふえ、カナダは世界的な小麦生産地となった。

●ジッパー

ホックなしの留め具——すなわちジッパーを最初に考案したのは、J・L・ジャドソンというアメリカ人だが、彼は一八九一年と九三年に特許をとっただけで、商品化するとか、さらに改良を加えるということはしなかった。

ジャドソンのアイデアに目をつけ、それをさらに発展させたのは、スウェーデン出身のギデオン・サンドバックである。サンドバックは、一九二五年に米国からカナダに移住し、セント・キャサリンズ(オンタリオ州のナイアガラ半島にある)にライトニング・ファスナー会社を創立した。彼は「ジッパーの父」と呼ばれている。

「ジッパー」というのは、B・F・グッドリッチ社が売り出したゴム製オーバーシューズの商品名だったが、それに付けたファスナーが「ジッパー」という名で知られるようになった。

編集後記

○経済特集号をお送りします。カナダの経済状況、資源産業、製造業については、断片的には報道されますが、全貌は中々伝わってきません。特集号も不十分ではありますが、カナダ経済の近況と展望はいくらかご理解いただけると思います。さらにご関心のある方は、当大使館通商部発行『カナダ通商ニュース』の「カナダへの海外投資特集号」も併せてお読み下さい。

○前号までご愛読いただきました藤永教授に代わって、今号から日本経済新聞社トロント支局長の橋田忠明氏にコラムを担当してもらいます。橋田氏は日経が一九七八年に日本の報道機関としてはじめてトロントに支局を開設して以来の支局長で、カナダについてはベテラン記者です。ご期待下さい。

○エッセイ・コンテスト優秀作品の掲載を再開します。しばらく連載したいと思っていますが、計画通りにいきますかどうか。

○いろいろな事情で七月号をお送りできませんでした。お詫びします。今後はできるだけ定期的に発行していくつもりです。

(吉田)

本紙中の意見や見解は、必ずしもカナダ政府またはカナダ大使館の考え方を反映するものではありません。また公式文書の翻訳は仮訳です。転載の際は、できるだけ出典を明らかにして下さい。ご意見やご希望は左記の住所にご連絡下さい。

〒107東京都港区赤坂七丁目三—三八
カナダ大使館広報部